

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 10 日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏名	榎戸敬介
研究課題	ポスト・パンデミック社会におけるグローバル都市中心部の変容				
研究キーワード	中心業務地区 (CBD)、グローバル都市間競争、サステナブル都市、文化的消費、公共空間、都市デザイン、都市観光、Temporary Urbanism、Eventful City	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	8. 働きがいも経済成長も	11. 住み続けられるまちづくりを	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今年度の成果は、グローバル都市の中心業務地区(Central Business District, CBD)において、自身が想定していた‘プレイ’の役割が強まっているという傾向を文献および実地で確認できたことにある。特に、著名な都市研究者として知られる Richard Florida (2021)によるパンデミック後の CBD の変容に関する研究や、Urban Design Lab (2024)による報告において‘プレイ’の役割を重視する CSD=Central Social District という概念が提示されており、今後の研究の概念的枠組みの構築を進めることができた。また、Central Experience District (CED あるいは CXD)という概念もモンリオール市 CBD の関係者から直接聞くことができた。このように、パンデミック後の CBD の変容を理論化するために CSD,CED,CXD といった新しい中心業務地区の概念と実例を確認することができたことが自身にとっての大きな成果である。</p> <p>*Richard Florida (May 14, 2021) “The Death and Life of the Central Business District,” Bloomberg CityLab.</p> <p>*Urban Design Lab (2024) “Rethinking Central Business District and the Rise of the Central Social District.”</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等</p> <p>(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>【論文 (査読あり)】</p> <p>無し</p> <p>【著書・論文 (査読なし)】</p> <p>無し</p> <p>【学会発表等】</p> <p>無し</p> <p>3. 主な経費</p> <p>消耗品、機器備品費</p> <p>4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)</p> <p style="text-align: right;">(本文は2ページ以内にまとめること)</p>					